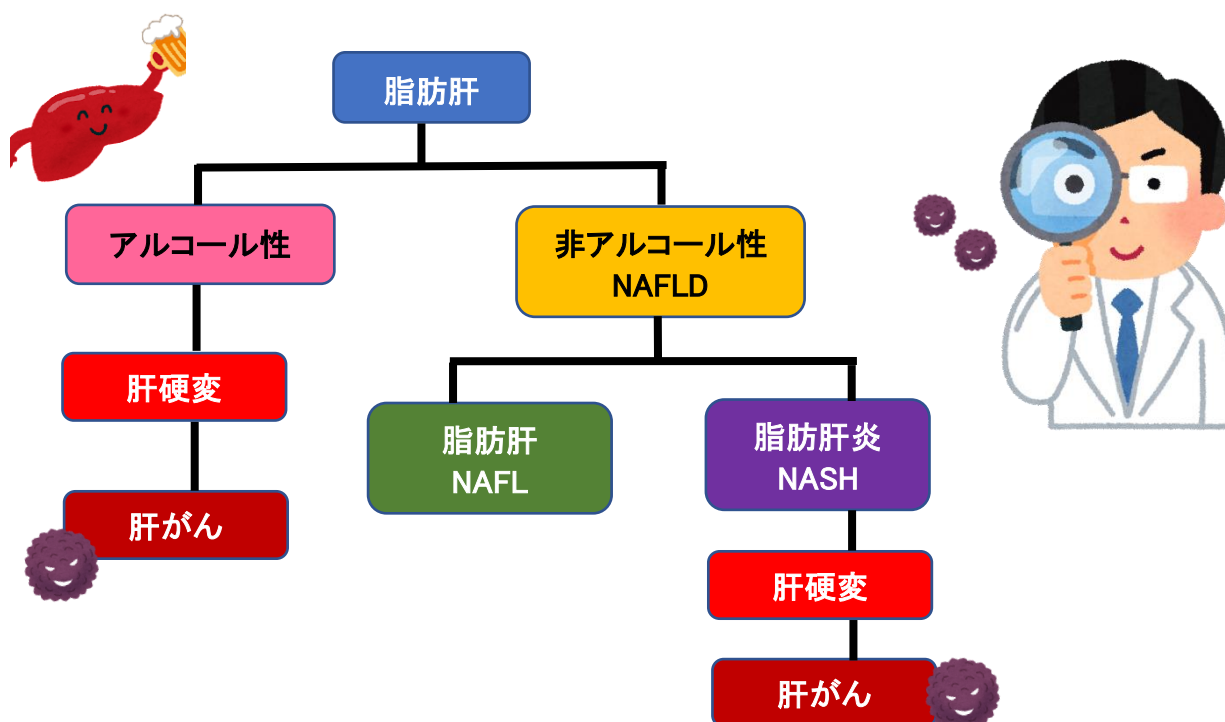


職員健診の肝機能検査で精密検査が必要であった方へ

肝臓に脂肪が多くたまった状態が「脂肪肝」ですが、お酒を飲みすぎた人がなる「アルコール性の脂肪肝」と、お酒をあまり飲んでいないのに肝臓に脂肪がたまってしまう「非アルコール性の脂肪肝」があります。お酒をあまり飲んでいない人、全く飲まない人でも脂肪肝になる人はたくさんおり、非アルコール性の脂肪肝でも、同じように肝臓の病気が進行してしまふことがあります。これを NAFLD（ナッフルディー）といい、アルコールを除く、いろいろな原因で起こる脂肪肝の総称です。その多くは、肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧を伴い、メタボリックシンドロームの肝臓病と考えられています。



たとえ、NASH になっても、かなり病気が進行しない限り、ほとんど症状はないので、自覚症状だけで脂肪肝 (NAFL) と NASH を区別することはできません。脂肪肝では、自覚症状のない人がほとんどで、中には、“だるさ” を訴える人もいますが、肝臓特有の症状というわけではありません。

NASH には、腸内細菌のバランスの変化や免疫系の反応なども影響しており、肝臓で炎症が強まって肝硬変へ進行するだけでなく、**肝臓がん**を発症するステップにも重要な役割を果たしています。つまり、お酒を飲んでいる人は、もちろん危ないけれども、お酒を飲んでいない人も危険なのです。

また肝炎の原因は、ウイルス感染や免疫系の影響によるものもありますので、検査で確認することが必要です。

早めに医療機関での精密検査を受けて、異常があれば早期治療を行いましょう。